

みらいエコリフォームセンター

5月号VOL. 17

東雲だより

東京直下型地震
震度7に備えましょう



今月のトピックス

防災特集

- ①4月研修および見学報告
- ②東雲発「緊急防災用トイレ」提案
- ③東京都認定防災シェルター紹介
- ④東京湾北部地震 震度想定の改定について
- ⑤ラボ訪問「防災学習施設 そなエリア東京」



東雲の液状化現象
2011. 3. 11

砂を含んだ泥水が
あふれ出ている

4月研修および見学報告

4月度の研修会および見学会をご報告します

- 4/2～4/27 弊社新人研修(男子10名、女子17名)
- 4/5 SFAジャパン様見学6名(本社フランスからも来訪)
- 4/10 斎久工業様新人研修15名(セキスイ配管基礎)
- 4/11 防災体験学習施設「そなエリア東京」ラボ取材
- 4/12 (株)エクснаレッジ(建築知識発行)取材
- 4/12 日本建設通信新聞社取材
- 4/17 東京BL販売店様新人研修18名
- 4/16 (株)シムドライブ様スマートオフィス見学15名
- 4/20 竹村総合設備(株)様新人研修6名(セキスイ配管)
- 4/24 システムバス現調研修(TOTO新商品含む)25名
- 4/25 新菱冷熱工業(株)様新人研修70名(レッキス配管)



4/18政府発表の地震想定の改定について思う

民間地震対策研究会 1級建築士 荒尾博氏 寄稿

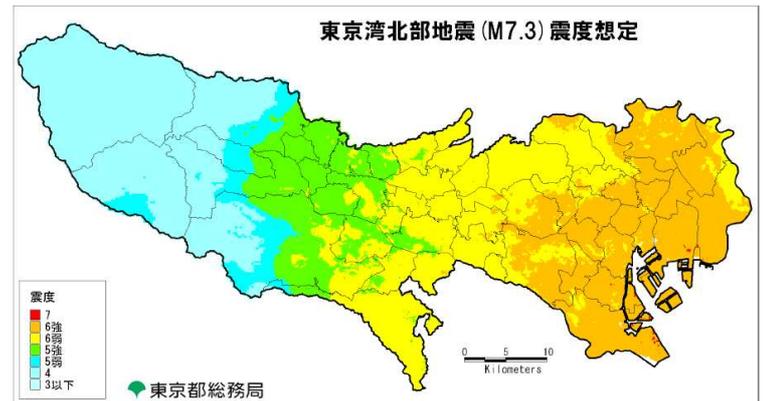
「4年で70%の確率で東京直下地震が起きる？」今年の1月、こんなショッキングなニュースから始まった地震想定に関する情報、その後、「最大35m弱の高さの津波……南海トラフ」そして、4月には東京都から首都圏の地震想定が公表されるに至って、もうほとんどの人が地震を意識せずには暮らせない状況になっています。

なかでも、震度6から震度7の範囲が広がり、津波は地震直後数分で到達となれば、地震対策を講じても全く意味のないすら思ってしまうのは私だけでしょうか？

1. 新たな想定



画1 東京の津波想定



画2 東京湾北部地震震度想定

画1は東京の海岸等での津波高さ予想で、画2は首都圏で発生する可能性の地震18ヶ所+2ヶ所(今年公表)の中でも可能性の高い「東京湾北部地震」が発生した場合の震度で、平成18年公表されていたものの改訂版です。従来、震源深さが30kmと想定されていたのですが、今回(平成24年4月18日)震源深さ20kmと浅く想定されたために震度6強弱の範囲が広がり、江東区や品川区、大田区などでは震度7と想定されています。

2. 東日本大震災前後で想定も変わった

東日本大震災が起きる前の、この種の地震想定は、どちらかと言えば控えめだった感がありました。それは、この情報によるいろいろな影響が大きかったからです。しかし、東日本大震災を予想できなかった、想定外だったという学識経験者や行政などの反省？からか、今度は一気に報道されている感があるのです。しかも、南海トラフも首都圏も従来からは想像も出来ないような津波の高さの根拠を調べてみると、言い過ぎかも知れませんが最悪のケースを最悪に想定した結果という感じさえするのです。

たとえば、東京湾内の津波の想定は、元禄型としています。元禄型とは1703年の元禄大地震でマグニチュードは8で首都圏では最大級です。しかし、この地震の周期で言えば1500~2300年とも言われていますし、1923年の関東大震災も200~400年周期です。つまり、再来するとしてもまだ時間があるはず。また、水門が閉じられた状態を条件にしていますが、東京湾北部地震の津波となると数分で到達することになると思われます。しかし、水門は通常開けられていて閉じるのに15分以上かかると言われています。いずれにしても、東京湾北部地震の予想マグニチュードは7.3と震源が東京都の東側と言うこと程度で、どう動いて、どんな震動で、何秒続いて、どの程度の津波が起きると言う情報は少なくとも公表されていません。

単純に海溝型で直下で起きるとなれば、阪神大震災のように11~15秒より長いはずで、震れが収まる頃には津波が到達するはずと言うことで、その場から動けるはずがないまま津波となるとという最悪の話すら考えられるのです。

ただ、地震想定は、ある意味最悪の条件で、それに自分なら、会社なら、学校なら等々どうするか真剣に考える必要があると思います。東日本大震災や昨年9月の台風などを教訓に帰宅困難者の徒歩帰宅行動も再考が求められています。より具体的に地震防災対策を考えなくてはいけないということなのでしょう。

東雲発防災用トイレ提案

緊急時非常用水洗便所「510型どこでもトイレ」



「510型どこでもトイレ」はプロパンガスのカセットボンベを燃料とした発電機と排水圧送ポンプ、水中ポンプをセットしたトイレです
災害発生時、水、電気、ガスなどがストップした時に便器から80mまでの汚水口へ汚物を圧送することができます
マンションなど集合住宅でトイレが使用出来なくなった時に防災倉庫からキャスター付のトイレを持ち出しストッパーをかけたテントを張るだけで設置は完了です

発電機をONにして水中ポンプで受水槽からトイレ用の先浄水タンクへ水を入れます
排便が済んだらバケツで便器へ水を入れると後は普通の水洗トイレと同様、汚物とトイレトーパーは圧送ポンプによって粉碎され管径20mm程度のホースで最大垂直で4m水平で80m先の汚水口へ搬送されます
非常時に不特定多数の人が利用する便所での水洗トイレの利点を最大限に発揮できる「510型どこでもトイレ」は、緊急時非常用トイレのトップモデルです

東京都認定 一条工務店防災用耐震シェルターの紹介



木質耐震シェルター



総務省の調査結果によると現在全国の住宅総数は約2500万棟です。
そのうち昭和56年以前の旧耐震基準で建てられた建物が40%もあります。
阪神淡路大震災においても、旧耐震基準の建物が大きな被害を受けています。
首都直下型地震に備えて、早急に対策が必要になっています。
そこで、既存の住まいに手を加えることなく、安価で短期に設置できる「耐震シェルター」が注目されています。
東京都18区市は高齢者・障害者世帯を対象に助成金の交付も行っています。
一条工務店さんの木質耐震シェルターは、3mの高さから3トンの瓦を落下させても耐えうる強度を持っており、設置も2日間で完成します。
大きさは内部にシングルベッドが2台設置できる広さを確保し、常時居住に違和感のないクロス張り仕上げとなっています。
販売価格は、なるべく多くの「人命を守る」ことに貢献したいという思いから、施工費を含め25万円という設定になっています。
一条工務店さんのご協力により、みらい市にも展示いたしますので、ご覧下さい。



4月11日東京臨海広域防災公園内にある防災体験学習施設「そなエリア東京」を訪問しました。東京臨海広域防災公園は、首都圏で大規模な地震災害が発生したとき、国や地方公共団体等の緊急災害現地対策本部が設置され、公園全体が広域的な指令機能を受け持つ場所となります。公園内にある「そなエリア東京」は、防災体験学習施設になっており、防災ゾーンと防災学習ゾーンに分かれています。国や自治体などの支援体制が整うまでは、自力で生き残れなければなりません。その目安は3日間、72時間といわれています。「防災体験ゾーン」では震度6強の東京直下型地震が発生した場合を想定し、ニンテンドーDSを使ったクイズに答えながら、生き抜く知恵を学ぶ防災体験型ツアーに参加できます。また空き缶や空のペットボトルを加工して種々の生活必需品を制作できることなども学習できます。



“東雲だより5月号”編集後記 元気MoriMori

そろそろ紫外線対策をしないとイケませんね
顔と手の甲は日焼け止めクリームを塗りますけど首は・・・
首にクリーム塗ったら衿が汚れるような気がします

(株)フューチャーテック
森 知子

そこで活躍するのが葛布ストール
葛に含まれるアラントインはお肌を強くする成分です
日本の古代に於ける衣服素材は上流階級は絹でしたが庶民は植物繊維の「大麻」そして「葛布」であったそうです
この「葛」は日本各地に自生している植物で、夏場に強い繁殖をします
根からは葛粉を取り、漢方には葛根湯として利用され、葛は地名に多く残っています
関東地方では葛飾、東葛、葛西、、、
日本の古代布の一つである「葛布」を忘れないで愛用したいと思います



お問い合わせは

みらいエコリフォームセンター

〒135-0062 東京都江東区東雲2-9-7 東京配送センター内
TEL.03-3527-5900<代> 営業日▶月～金9:00～17:00 土：応相談

●お問い合わせは
TEL.03-3527-5628 FAX.03-3527-6070

